

SPECIAL

平成23年度 創立記念式典 加藤理事長ご挨拶
(平成23年4月1日 於: 横須賀本部大講義室)

つい最近まで冬のような寒さが続いておりましたが、ここ2、3日で暖かくなり、構内の桜が今日やっと咲きはじめました。このような素晴らしい日に創立記念日を迎え、第2期中期計画期間も折り返しとなる3年目を迎えられるのも、役職員や関係者の皆さんの努力の賜物であると深く感謝いたします。

さて、昨年度を振り返りますと、政府の新成長戦略等に掲げられた課題である海底資源の研究開発が予算化されました。なおこれら一連の事業を円滑に進めていくため、本日付で「海底資源研究プロジェクト」が設置されました。また、「ちきゅう」も7月の南海トラフ掘削にはじまり、沖縄トラフ掘削、再び南海トラフの掘削と就航後初めてフル稼働したと言える年でした。DONETの敷設など他の事業も含めて、JAMSTEC全体が総じて順調に進んだという印象を持っております。

そのような中で、3月11日に東北地方太平洋沖地震が発生いたしました。JAMSTECの職員、関係会社の社員の皆様の中にも、東北地方のご出身や在住の方が多数いらっしゃいます。この場を借りまして、JAMSTECを代表して心よりお見舞いを申し上げます。加えて電力不足などによりこれまで経験したことのない状況下での業務となりましたが、職員、関係者の皆様に迅速かつ冷静に対応いただいております。深く敬意を表したいと思います。

現在では政府の要請により、「かきれい」による震源域の調査、「白鳳丸」「みらい」による福島沖の海域モニタリングを実施しております。現場で調査にあたられている皆様をはじめ、陸上での支援・調整をされている方々のご尽力に心から称揚申し上げます。今後は、引き続き必要な災害対応を継続するとともに、損傷した「ちきゅう」の修理や、「地球シミュレー



夕」等の研究設備なども電力不足に対応しながら可能な範囲で正常化を図っていくつもりです。

今回の災害が甚大になった背景には、地震と津波の規模を想定できていなかったことがあります。これまでも災害のたびに「想定外」という言葉が使われてきたわけですが、そろそろ「想定外」は許されない状況になっているのではないのでしょうか。今後、このような被害は地震や津波だけではなくかもしれません。温暖化に伴って巨大な台風や激しい土砂災害が発生する可能性もあります。

JAMSTECは、「海洋を通して地球を知り、地球との共生に資する」をモットーに研究開発を進めてきておりますが、地球は途方もなく巨大であり、また複雑な研究対象です。巨大で複雑であるからこそ、細分化された視野の狭い研究となっていくことも考えられます。いま一度これまで常識とされていた事象を振り返り、あらためて地球に対する畏敬の念を持ちながら、これまで以上にシステム地球科学的なアプローチにて、より全体を捉えた視点を持って研究を進めていきたいと思っております。

最後になりますが、平成23年度予算が成立いたしました。厳しい予算の中ですが研究部門については可能なかぎりの配慮をしております。そしてJAMSTECは今年10月で40周年を迎えます。その記念の年にこのような事態に直面しましたが、40年間の経験を前進していく力に換えて業務に取り組み、本年度も海洋地球科学研究のCOEを目指して研究開発に邁進していくつもりです。

本年度が皆様にとって様々な面で充実した1年になりますよう祈念するとともに、健康と安全に充分に留意してお過ごしいただくようお願いいたします。創立記念にあたっての挨拶とさせていただきます。

TOPIC

「海底資源研究プロジェクト」の設置について

JAMSTECでは、海底資源への高いニーズに対応し集中的な研究開発を行うため、2011年4月1日より、リーディングプロジェクト「海底資源研究プロジェクト」を新たに設置しました。海底資源研究プロジェクトでは、巨大な鉱物資源として有望視されている海底熱水鉱床やコバルトリッチ・マンガングラスタの成因解明や探査技術の開発、クリーンなエネルギーとして期待される海底下のメタン生成システムの研究、無人探査機を用いた探査技術の実証などの研究開発を推進して

いきます。

また、これまで「うらしま」など自律型無人探査機を開発してきたJAMSTEC海洋工学センターにおいても海洋資源探査用の無人探査機の開発を進めることで、世界第6位の排他的経済水域を持つ日本の海底資源の探査と利用のために必要な研究開発を総合的に展開していきます。

(海底資源研究プロジェクト)

SPECIAL

第13回全国児童「ハガキにかこう海洋の夢コンテスト」入賞者発表

全国児童「ハガキにかこう海洋の夢コンテスト」は、文部科学省、日本理科美術協会、CG-ARTS協会の後援のもと、JAMSTECが全国の小学生を対象として毎年開催しているコンテストです。「絵画部門」「CG部門」「アイデア部門」の3つの部門において、ハガキサイズの紙に「海洋」への夢やアイデアを表現した作品を募集しています。

13回目となる今回は、全国から総数29,319点の応募があり(絵画部門27,116点、CG部門208点、アイデア部門

1,995点)、厳正な審査を経て入賞15点、入選105点が決定されました。全入賞入選作品120点はJAMSTECのホームページにて公開しています (<http://www.jamstec.go.jp/j/kids/hagaki/index.html>)。

なお、最終審査会において惜しくも入賞・入選とならなかった289作品を「準入選」といたしました。また、特に積極的にご応募くださいました9団体へは「海洋科学技術普及賞」を贈呈いたしました。(広報課)

最優秀賞

文部科学大臣賞

絵画部門

海の音楽会

福士 航平

青森県三沢市立古間木小学校 2年



優秀賞

海洋研究開発機構理事長賞

絵画部門

海のおかしやさん

栗山 諒

神奈川県横浜市立白幡小学校 1年



日本理科美術協会賞

絵画部門

そうだ、
さんご町に行こう

藤代 直璃

神奈川県横浜市立篠原小学校 1年



CG-ARTS協会賞

CG部門

海の中の街

武田 亨太

青森県十和田市立南小学校 1年



海洋の夢賞

アイデア部門

研究探査機
なまっこ君

山下 みき

愛知県春日井市立篠木小学校 6年



特別賞

絵画部門 ひみつの深海公園

村田 涼
神奈川県横浜市立富士見台小学校 1年



絵画部門 ぼくたちが
まもってあげるよ

柳澤 恵太
青森県むつ市立第一田名部小学校 2年



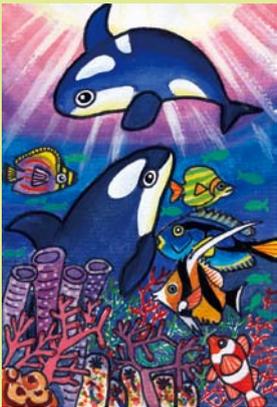
絵画部門 おーい!しんかい6500
猪鼻 真也

徳島県鳴門教育大学附属小学校 3年



絵画部門 青く輝く
サンゴの海

浪岡 優花
大阪府大阪市立大宮西小学校 4年



絵画部門 ハリセンボンの
トゲトゲ
アスレチック大会

市川 菜月
愛知県岡崎市立広幡小学校 3年



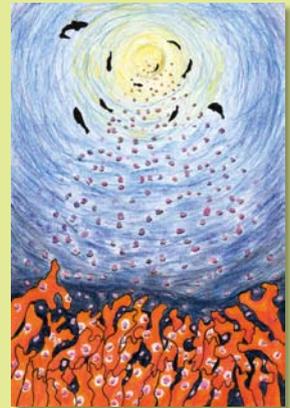
絵画部門 魚のゲルニカ

梅村 承佑
神奈川県横浜市立港北小学校 3年



絵画部門 小さな命の
偉大な神秘

日高 正晴
愛知県安城市立桜井小学校 6年



CG部門 タコとイカのケンカ

飯田 穂乃香
神奈川県横須賀市立夏島小学校 1年



絵画部門 海宇宙

浜田 一希
神奈川県横浜市立篠原小学校 5年



絵画部門 古代魚

宮本 優菜
茨城県土浦市立土浦小学校 6年



東北地方太平洋沖地震により、配達が困難な地域では賞状の到着が遅れております。今後、配達が正常化されても届かない場合にはコンテスト事務局へご連絡ください。参加賞につきましても、未配達や数量不足のある方は、大変お手数ですがコンテスト事務局へご連絡ください。

なお、今回の震災で被災された方につきましては、ご希望があれば作品をご返却いたしますので、コンテスト事務局までご連絡をお願いいたします。

「ハガキにかこう海洋の夢コンテスト」事務局 電話:046-867-9070 メール:hagaki@jamstec.go.jp

PRESS

気温上昇2℃以内実現には、化石燃料起源のCO₂排出量を「ゼロ以下」に
～新モデルによる新たな知見～

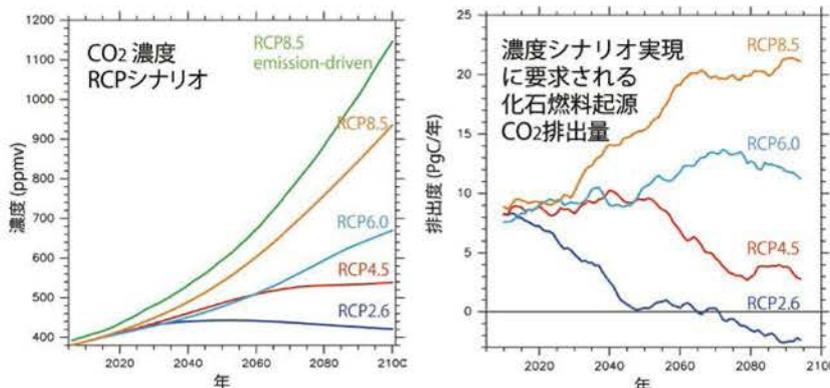
温暖化による様々な影響を防ぐには、産業革命以降の世界の平均気温上昇を2℃以内に抑えることが重要だと欧州連合等は主張しています。その実現に向けて要求される二酸化炭素(CO₂)排出量をJAMSTEC IPCC貢献地球環境予測プロジェクトの時岡達志プロジェクトリーダーらが研究したところ、化石燃料起源のCO₂排出量を今世紀中に「ゼロ以下」にする必要があることがわかりました。

本研究は、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第5次評価報告書に向けて世界に先駆けて行ったものです。実験には、新たに開発した新地球システム統合モデル(ESM)を用いました。ESMは、炭素循環や陸域植生の種類の変化、地上約80kmまでの大気循環、オゾンホール等を再現するモデルで、将来の地球環境変動のシミュレーションを可能とします。

実験の結果、2040年代以降化石燃料起源のCO₂排出量をほぼゼロにした上で、2070

年以降にはCO₂を海底に封じ込めるなど人為的回収を行う必要があることを突き止めました。さらに、今後10年で温暖化の進行は本格化。このような地球温暖化に伴い、台風の発生数は減りますが強度は増し、また経路は東へ偏ることが新たに判明しました。

今後は追加実験を実施し、さらに詳細な解析を行う予定です。(IPCC貢献地球環境予測プロジェクト)



イベントのお知らせ (詳細はホームページ<http://www.jamstec.go.jp>をご覧ください)

● 横浜研究所 地球情報館 毎月第3土曜日開館

横浜研究所 地球情報館では毎月第3土曜日に特別企画を実施しています。ぜひご来館ください。(入場無料、予約不要)

日時:5月21日(土)10:00~17:00

- ・公開セミナー(13:30~15:00)
- ・子ども向けおはなし会(11:30~12:00)
- ・JAMSTECクイズラリー(10:00~17:00):館内に隠されたヒントを探してクイズに答えよう。全部できたらオリジナルグッズと交換。
- ・そのほか「実験教室」や「地球シミュレータ」見学ツアーなど開催。

● 『しんかい16500』就航20周年記念シンポジウム開催報告

2011年3月6日に開催した同シンポジウムは、427人のかたにご来場いただきました。海外からの講演者による米国、中国の潜水調査船に関する動向、研究者による研究成果紹介や今後の期待、またノンフィクション作家の山根一真氏による講演等が行われ、終始盛況でした。

● 『ブルーアース'11』開催報告

2011年3月7日~8日にJAMSTECの船舶を用いた研究成果の発表会ブルーアース'11が行われました。口頭発表66件(昨年度43件)、ポスター発表119件(昨年度117件)、来場者は650名(昨年度748名)でした。7日は雪交じりの天候で来場者数は減りましたが、昨年に比べて発表課題数は増え、活発な議論が展開されました。

● 『JAMSTEC2011』開催報告

2011年3月2日に、平成22年度海洋研究開発機構研究報告会「JAMSTEC2011」が行われ、平成22年度の成果を2部構成で報告いた

しました。第1部では、生物多様性、大気海洋結合モデルを用いた気候の解明・予測、電磁気観測による地球内部・津波・海底資源の観測技術等について紹介し、第2部では、日本周辺の海底下に眠る海底資源の探査技術開発や地球深部探査船「ちきゅう」を用いた科学掘削の新たな展開について紹介いたしました。

例年5月に開催しておりました横須賀本部の施設一般公開は秋に延期いたします。

● 人事異動

日付	氏名	内容
2011.3.30	大光 英世	(総務部次長 退職)
2011.3.30	真鍋 烈	(経営企画室事業戦略担当 退職)
2011.3.31	須田 登	(監査室室長 退職)
2011.4.1	白山 義久	理事
2011.4.1	今脇 資郎	地球情報研究センターセンター長
2011.4.1	鳥海 光弘	地球内部ダイナミクス領域領域長
2011.4.1	木川 栄一	海底資源研究プロジェクトプロジェクトリーダー
2011.4.1	田代 省三	海洋工学センター 運航管理部部長
2011.4.1	網谷 泰孝	海洋工学センター 総括担当
2011.4.1	鷲尾 幸久	海洋工学センター 企画調整担当 海洋工学センター 企画調整グループリーダー
2011.4.1	吉川 泰司	むつ研究所管理課課長
2011.4.1	黒田 芳史	高知コア研究所所長
2011.4.1	廣瀬 重之	高知コア研究所管理課課長
2011.4.1	山西 恒義	事業推進部部長
2011.4.1	他谷 康	事業推進部広報担当
2011.4.1	木本 徹	事業推進部国際担当
2011.4.1	土橋 久	経営企画室室長
2011.4.1	松永 富也	監査室室長

■ 編集後記 東日本大震災も、衝撃から復興に軸足を変えようとしています。ここからいかに早く、平常の軌道に乗せるかが勝負でしょう。このような時に科学研究は遅れがちになりますが、そういう時こそ力の見せ所だと感じます。40年という節目の年でもあり、しっかりと「節」を成長の記録として残していきたいものです。子供たちの「海洋の夢」が、現実のものになるような努力に、惜しみはないのです。(T.M.)